

ひまわり通信

2023
発行日：令和5年3月31日
Vol.23

発行：乙訓ひまわり園広報チーム／発行責任者：小野哲／発行元：京都府向日市上植野町五ノ坪 11-1



乙訓ひまわり園

〒617-0006 京都府向日市上植野町五ノ坪 11-1
デイセンター TEL.075-935-7071 FAX.075-935-7072
ワークセンター TEL.075-935-0055 FAX.075-935-7072
地域生活支援センター TEL.075-935-7081 FAX.075-935-7082
地域連携室 TEL.075-935-0101 FAX.075-935-7072

第2乙訓ひまわり園

〒617-0006 京都府向日市上植野町五ノ坪 13-1
TEL.075-935-0112 FAX.075-935-0113

第3乙訓ひまわり園

〒610-1131 京都府京都市西京区大原野上羽町 388
生活介護事業所 ゆい・就労継続B型支援事業所 草のたね
TEL.075-335-0222 FAX.075-335-0233

児童通所支援事業所ひまわり

〒617-0006 京都府向日市上植野町北小路61
児童発達支援事業所・放課後等デイサービス事業所
TEL.075-754-6895 FAX.075-754-6922

Kakehashi



【表紙写真】

乙訓ひまわり園ワークセンター製パン部門の一枚。日々のパン生地作り、ひとつひとつの作業を丁寧に取り組むことで、その技術は熟練していきます。この真剣なまなざしが向かう先には、きっと kakehashi のパンを食べて喜んでくれるお客様の笑顔があるはずです。

Satoru Ono 理事長 あいさつ 小野 哲

令和 5 年度のひまわり通信の発刊にあたり一言ご挨拶申し上げます。今年度はアフターコロナ社会へと移って参ります。向陵会としても社会福祉施設に求められる感染対策を講じながら、活動に取り組みたいと思います。

新しい取り組みとして、昨年 8 月に長岡京市共生型福祉施設事業の事業者として特定されました。令和 8 年度の事業所開設に向け、取り組んでいます。

また、西京区大原野では第 3 乙訓ひまわり園を中心として、京都農福イノベーションの取り組みを進めます。令和 4 年度には灰方地区に新たないちご園を開設しました。今年度は地域の関係団体との連携をさらに進めていきたいと考えています。

そして、重要な課題として老朽施設の更新に取り組んでいきます。昨年地域生活支援センターで空調設備を更新しました。乙訓ひまわり園では開所から 23 年目を迎え、空調機器をはじめとする、施設設備の更新を今年度も計画的に進めてまいります。

今年度も向陵会の基本理念『共生』のもと歩んでまいります。今後とも向陵会へのご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に、将来を見据えて上記の新規事業への取り組みや送迎車両並びに老朽設備の更新に必要な資金確保のため、法人へのご寄付をいただいた方が税額控除を受けられる、税額控除の認定法人となる条件整備の取り組みを一昨年度から始めました。5 年間の実績が求められており、引き続きのご理解、ご協力を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。



ご寄付のお願い

社会福祉法人向陵会では、障害福祉のより一層の充実のため、個人、法人、団体の皆様からの寄付金の受付を行っております。ご支援頂いた寄付金は障害のある皆様が利用する施設の老朽化に伴う改修、修繕のための工事や送迎車両の増車、更新費用等に有意義に使わせて頂きます。なお、社会福祉法人向陵会へのご寄付は、寄付金控除等、税制上の優遇措置を受けることができます。

1 口、3,000 円から受付させて頂いておりますので、ご協力のほど宜しくお願いします。

乙訓ひまわり園後援会からのお知らせ

「乙訓ひまわり園 後援会ニュース」は「乙訓ひまわり園後援会会則（改正）」変更に伴い、昨年度をもちまして廃刊させて頂きました。

なお、令和 4 年度の繰越金 2,556,495 円に関しましては、社会福祉法人向陵会の特定寄付金として口座の方へ振替させて頂きました。

法人の新たな取組

ストロベリーハウス “ら・ぷら～す” がオープンしました

ストロベリーハウスは、就労継続支援事業所「草のたね」の利用者増に対応し、就労作業の場を拡大するため、令和4年度から農地の購入やビニールハウスの整備に取り組んできました。

果樹いちごは、栽培経験のある職員から、利用者や職員が指導を受け、今年は品種も4品種増やし、“章姫（あきひめ）”をはじめとした5品種を育苗しています。ハウスの名前も「多くの人が集まる場所に」という意味を込め、“ら・ぷら～す”に決定しました。これから“ら・ぷら～す”が、たくさんの方が集まり、交流できる場所に成長していけるよう、メンバー・職員ともに取り組んでいきます。

令和5年3月からは「摘み取り園」もスタートし、たくさんのお客様でにぎわっています。

また、Instagramにて、随時草のたねの情報も発信しておりますので、ぜひフォローもよろしくお願い致します。



Strawberry House
ら・ぷら～す

京都市西京区大原野灰方
第3乙訓ひまわり園 草のたね



KOURYOKAI_KUSANOTANE

Instagram URL : https://www.instagram.com/kouryoukai_kusanotane/

法人の新たな取組

長岡京市共生型福祉施設整備事業に係る事業者に特定されました



このたび、長岡京市から公募されました共生型福祉施設整備事業に応募し、昨年8月26日に事業者として社会福祉法人向陵会が選定されました。

共生型福祉施設整備事業は、京都府立向日が丘支援

学校の改築に合わせ、同敷地及び周辺などを活用し、教育と福祉の連携を密にした複合的な施設整備を誘導するため、令和元年5月、長岡京市において同構想が策定され、公表されたところです。



社会福祉法人向陵会では、特定非営利活動法人朔日の会と共同し、地域生活支援拠点機能及び児童発達支援センターの機能を有する施設整備を提案いたしました。

今後、両法人が力を合わせ、開発及び施設整備に当たっての様々な課題を解消しつつ、長岡京市からのご指導を受け、同構想の実現に向け、取り組んでまいります。

はたらく

ワークセンター

クリーニング・下請け部門にあらたな受注契約がありました

11月に開催された長岡京市ガラシャ祭で使用された法被(はっぴ)の洗濯業務の依頼をいただきました。市役所で洗濯物を受け取り、園でクリーニングして、下

請けのメンバーで協力をして、1枚1枚丁寧に畳んで上げていきました。これからも地域との繋がりを大切にがんばっていきます。



製パン喫茶部門のお楽しみパンセット

いつも kakehashiをご愛顧頂きありがとうございます。今年度も kakehashiでは日頃の皆様への感謝の気持ちを込めて、パン・クッキーのお楽しみセットを販売させていただきました。メンバー・職員ともに皆様

に喜んでいただけるよう心を込めて取り組みました。皆様の Bakery café Kakehashiへのご来店、心よりお待ちしております。



カフェ樹林

アフターコロナに向けて

龍谷大学内も以前のにぎやかな雰囲気が戻ってきました。今年度は、龍谷祭も行われました。学内でのお弁当販売も、大学教授や、学内で仕事をされている事務員さんなどに少しずつ浸透し、販路を広げています。コロナ禍で、売り上げをあげるため苦労した日々でし

たが、活気ある日々が戻ってきています。販路拡大・売り上げアップを目指して、営業活動も積極的に行っています。

※お弁当販売ホームページ

URL: <https://www.cafe-jurin.com/>



はたらく

草のたね

花卉（かき）ハウスの取り組み

草のたねでは花苗や園芸雑貨などの生産に携わる作業を行っています。良い苗づくりを通して、いかに芽を伸ばすか、一生懸命生きている植物から教わることも多いです。播種（はしゅ）から出荷まであらゆる生産工程の中で、メンバーそれぞれの強み

を生かして、共同して取り組んでいます。一人ひとりがここにいる意味をしっかりと体感できるように、今後も良い環境を提供していきます。



農園部門の果樹栽培が進化しています

大原野に新たにストロベリーハウスを建設し、2か所でいちごの栽培を行っています。今年の3月からいちご摘み取り園も開設しました。また、マスカットは昨年から本格稼働し、想定を超える品質のマスカットを収穫することができました。いちご・マスカットともに販売先で好評です。そして、大

原野花卉ハウス付近の畑では、メンバーと一緒に畑を耕し、ニンニク、玉ねぎの畝数を増やして定植をおこないました。今年3月に京都府からの補助を受け開催した「草のたねマルシェ」も、たくさんの方にご来場いただき、大変好評でした



久世公衆浴場部門の清掃チームが活躍

今年度から新たに公衆浴場清掃の仕事をしています。浴室磨き、脱衣場拭き上げ、玄関周りなどの掃除を覚えるところから始めました。慣れてくるとそれぞれに役割分担ができ、今では責任感を持ち、担当外の仕事もメンバー同士助け合って取り組んでい

ます。今日も「がんばってるね」「きれいになったね」の言葉を糧にして仕事に励んでいます。ぜひ一度、久世公衆浴場に足を運んでいただけると嬉しいです。



草のたねの商品は下記の店舗等で取り扱っています。

- ・じねんと市場、産直ひろばタカギ、(ほぼ毎日)
- ・らくさいマルシェ(毎月1回、最終土曜日)、花子百貨店(年2回、4月と11月)

たのしむ

デイセンター

夏を楽しむ企画を行いました

コロナ禍において少しでも季節を感じ、楽しめるようにと、デイセンターでは今回の企画に取り組みました。8月から9月にかけて、ペットボトルの風鈴作り、オリジナルのうちわ作り、夏の映像鑑賞会など、夏に

関係することや創作をおこない、皆で夏を楽しみました。今後もメンバーが季節を感じられるような活動を大切にしていきたいと思っています。



第3 乙訓ひまわり園 ゆい

園芸を通じて「作って食べる喜び」を

洛西ニュータウンや向日市から少し離れただけで周りは田園風景。第3乙訓ひまわり園ゆいはそんな大原野地域にあります。自然を活かした活動が多い中で、今年度もっとも力を入れていたのが園芸です。畑を耕し、種を蒔き、毎日水やりや雑草抜きをがんばった結果、たくさんの収穫がありました。中でも大根は甘味のある、とても良いものができました。ふだんは野菜嫌い

なメンバーもスティックにしたものを生でポリポリ食べるほどです。ボランティアさんやご家族の協力もいただき、豚汁を作り、昼食に1品追加することもできました。

ひとつひとつの作業によって野菜が収穫でき、食べる楽しさにも繋がる園芸作業は、メンバーにとって目的意識を持ちやすい活動だと考えています。



第2 乙訓ひまわり園

イベントはプロセスこそ楽しいのだ

第2乙訓ひまわり園では感染症対策をおこないながらの行事企画に力を入れてきました。コロナ禍で活動が制限される中、なんとか園内で安全に楽しめる行事は無いかと、新たな取り組みを計画し挑戦しています。今年もメンバー・職員、力を合わせて、季節に応じた活動やイベントをおこないました。イベント当日はもちろん、準備段階からもしっかり楽しめるよう、工夫を凝らしています。準備物のデザインなど、皆で相談し一緒に作り上げていくことで期待も膨らみ、当日までのプロセスを楽しむことができました。

つむぎ.beグループでは、つむぎスポーツフェスタを開催しました。今年で三度目の開催となります。利用者それぞれチームに分かれ、応援旗を手書きで作成し、雰囲気盛り上げていきました。当日は、「パン引き競走」や「借り物競争」で汗を流しながら、みんなで一つのことに取り組めることを喜び、清々しい秋の雰囲気を楽しみました。

そらグループでは、初めての試みとして、ハロウィン仮装パーティーをおこないました。パーティーに向けて、パンプキン帽子や衣装の創作をしました。当日はいつもと違う姿を見て、互いに笑い合いながら、ハロウィンダンスやお菓子を食べて、楽しい時間を過ごすことができました。

ハロウィンパーティーに向け、パンプキン帽子を制作しました。画用紙を上手に切り貼りし、自分の頭のサイズに合わせた色々な目や鼻、口を付けていきます。「どんな帽子になるかな？」とワクワクしながら作りました。



児童通所支援事業所ひまわり

子どもたちにたくさんの体験を提供するために

児童発達支援では、未就学児を対象に個別の療育を行っています。放課後等デイサービスでは療育の必要な小学生から高校生の子どもたちを対象に様々な活動プログラムを実施しました。今年度は20名ほどの子どもたちが利用し、毎日元気いっぱい子どもたちは、ひまわりでできたお友だちと遊ぶのを楽しみに笑顔で来所してくれました。お友だち同士や職員とのかわりの中で、いろいろな経験をしながら日々成長しています。マスクを着用しての買い物や工場見学、感染予

防に十分配慮した上でのクッキングなど、コロナ禍でも様々な体験ができるよう心がけました。おやつが大好きな子どもたちに大人気の買い物活動や、のびのびと身体を動かすことができる公園に外出など、通年のプログラムに加え、クリスマスや節分といった季節のイベントも行いました。子どもたち一人ひとりの障害特性やスキル、個性に合わせて、夢中になって楽しめるような活動計画を心掛けています。



地域連携室

相談支援の実践を発表することの意義

2月に法人の取り組みで行われている実践報告会で、医療的ケア児に関する実践を報告させていただきました。

令和3年9月に医療的ケア児支援法が施行され、京都府においても、翌年4月に「京都府医療的ケア児等支援センター」(愛称: ことのわ)が開設されています。

今回の報告内容は、NICU(新生児集中治療室)から退院し、在宅生活を送る中で、未整備の在宅支援を背景に、さまざまな地域資源との連携を通して、多職種

連携の重要性や、地域課題の解決に取り組んできた実践を報告しました。

審査員の方々からも、高い評価をいただき、普段、見えにくい相談業務のやりがいや、実務を知ってもらうという点で、とても良い機会となりました。今後も、こういった機会を通して、法人が取り組むソーシャルワークの実践を可視化し、地域課題やその実践の重要性を皆で確認していきたいと思えます。

地域生活支援センター

短期入所事業所・サポートステーションにおける人材育成の取り組み

職員一人ひとりの課題やニーズに合わせた研修計画を年度ごとに立案し、それに沿った人材育成に取り組んでいます。

多くの外部研修に職員を派遣しているほか、定期的に行っている各会議の中でも様々な研修を行いました。虐待防止研修や感染症対策のほか、救命救急訓練や行方不明者捜索訓練等、その内容は多岐に渡ります。最近ではZOOMや動画撮影なども積極的に利用し、少しでも多くの職員が研修に参加できるよう工夫しています。これからも、人材育成は最重要課題のひとつであると認識し、充実した研修を実施していけるよう取り組んでいきたいと思えます。



行方不明者捜索訓練の様子



ZOOMで研修に参加

グループホーム ジョイフル

ホームで活用しているICT機器や介護ロボを紹介します

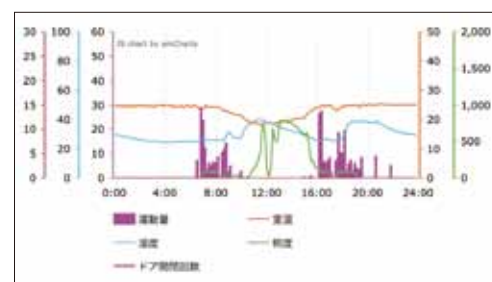
「LASHIC-CARE(ラシクケア)」

ジョイフル上鳥羽に設置している、室内の温度や湿度、明るさなどを確認できるシステムです。人の動きも、カメラではなくセンサーで確認できるようになっています。



ラシクケアのセンサー

ます。室温などの環境調整はもちろん、夜間巡回の物音で目が覚める方の様子確認にも活用しています。数字やグラフで客観的に状況がわかるので、生活リズムの把握や室内環境の検討にも役立っています。



タブレット端末でセンサーの情報を閲覧できます

「HUG(ハグ)」

ジョイフル東ノ口で使用している、座位からの立ち上がり介助と移動、立位保持を補助する介護ロボです。トイレなど車いすでは介助しにくい場所への移動や姿勢

保持に役立っています。安定感があり、介助者だけでなく介助を受ける側の負担も軽くなり、喜ばれています。



①脇にHUGを差し込んで



②電動で持ち上がります



③このままキャスターで移動できます

健康支援室

メンバーさんに安心して利用していただくために

急な体調不良、作業中や活動中のケガ、継続した医療処置が必要なメンバーさんの対応、てんかん発作の対応や発作直後、吸引が必要なメンバーさんの送迎添乗なども行っています。

また、新人職員研修、メンバーの基礎疾患に関する勉強会、感染症講習、医療的ケアのマニュアル作成や実地研修なども行いました。定期健康診断・歯科健診・

インフルエンザワクチン接種についても嘱託医と調整し、実施しました。多職種(支援員、相談員、主治医や訪問看護師、PT・OT、歯科衛生士、行政等)と連携し、ご家族とも相談・連携しながらメンバーの日々の過ごしを支えています。健康に関することなど相談などあれば、気軽にお声掛けください。



訪問看護ステーションきりしま

誰もが住み慣れた地域や自宅で、そのひとらしく安心して暮らしていただけるように

本人や家族に寄り添い、主治医の指示のもと、ご自宅などに訪問看護を提供しています。専門的な視点から異常の早期発見と早期対応、医療処

置や健康面の相談やアドバイス、日常生活のサポートを多職種と連携を図っています。



グループホームにて薬の管理等を行っています。



ご自宅へ訪問し全身状態の観察、バイタルサイン、医療処置など行っています。